

プラン構想
キヤンブ
那須

那須塩原市がP.T設置

半年程度で骨子まとめる

【那須塩原】首都直下地震など巨大災害で国の中枢機能の継続が困難になった場合のバックアップ候補に名乗りを上げている市は、「首都機能バックアップ・キャンブ那須構想」を具体化するため、市内にプロジェクトチーム（P.T）を設置する。19日の記者会見で阿久津憲二市長が明らかにした。

P.Tは企画部に事務局を置き、防災、情報、都市計画、農観商工、企業誘致、再生可能エネルギー等分野ごとに各部から選んだ12人（事務局除く）で構成。過去に首都機能移転構想に関わった職員や若手も登用する。

①東京圏での災害発生後の初動期における市の役割の平時の「キャンブ那須」から有事

のバックアップ拠点へどう移行するか③首都機能バックアップ場所とするメリットやデメリットなど構想の骨子を、半年程度でまとめる。26日に第十回会合を開く。

記者会見で阿久津市長は「那須地域は緊急の場合に国にも貢献できる最大の基地になっ

てしかるべき。地域ブランドイメージも高められれば」と、構想の実現に意欲をみせた。

この日午前中開かれた市議会全員協議会で、市は構想について初めて市議会に報告。阿久津市長は首都機能移転が県を挙げた誘致活動の末に挫折したこ

とに触れ、「苦い体験ずに済む」などと、理解と協力を求めた。

（飯塚博）